

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	学校名(京都市立待賢幼稚園)	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	自己評価	評価日 平成28年2月29日	評価日 平成28年3月2日		
1 確かな学力	主体的に遊び込む子どもの育成	昨年度の国立教育政策研究所や京都府指定の研究をもとに、園内研修で子どもの記録の検討を継続し、一人一人の発達に応じた指導の充実めざす。	一人一人の発達に応じた経験ができるようになっているか、幼稚園に行くのを楽しんでいますか。毎日あてもつと園内に遊びに来ていますか。	「発達に応じた指導」は97%、「めあてをもつて自分の力を発揮」は85%あてまると回答	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者・組織 幼稚園評議会委員会	評価者(いずれかに○) <input checked="" type="checkbox"/> 学校運営協議会 <input type="checkbox"/> 学校評議員	
	コミュニケーション力の育成	挨拶の意識向上 聞きたくなる話したくなる信頼関係の構築	自分の良い言葉で伝えたいといつも育っていますか。人の話を聞く態度が身についていると思いますか。挨拶や返事がでてきていると思いますか。	「言葉で伝えたい思いの育ち」は94%、「話を聞く態度」は89%、「挨拶や返事」は94%あてまると回答			学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	
	ノーテレビ・ノーゲーム	100冊読書の親子の取組 絵本室の活用、話し合いの機会の確保	ノーテレビ・ノーゲームで絵本読もうで、絵本読もうデータの推進、言語活動(絵本を読む、話し合い)の充実	「ノーテレビ・ノーゲームデータの定着」は66%、「100冊読書の取組」は86%があてまると回答			学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	
2 豊かな心	豊かな体験活動	園内・外での自然体験 小動物とのふれあい 地域や小中学校等との交流	子どもの姿の変容 子どもがいきいきと園生活ができるように環境づくりをしていましたか。	「園の環境づくり」については100%あてまると回答 園外保育11回(宿泊1回)	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	幼小連携の在り方を考える上で、年間を通して計画的に取り組んでほしい。	他園で不調をきたした子どもが、本園で自分しさを發揮している例が多くある。本園並びに公立幼稚園の子どもの受け入れの広さである。学校運営協議会の活動支援ボランティアが、来年度以降も継続した支援をしていくたい。	
	規範意識の育成	遊びや生活の中での具体的な事柄からの指導 全教職員による素地指導	園内研修での細かい子どもの記録の分析・回数 素地指導の回数	園内よりの子どもの姿(毎月) 園内研修後期6回(研究保育年間3回)			→	絵本、読み聞かせは、子どもの情緒の安定や良好な親子関係をつくることに関係していくので、今後も引き続き取り組んでほしい。	
	豊かな感性を育む	園庭の草花などの環境の充実 伝統文化に触れる、観劇体験、正しい言葉使いの徹底	園内研修での細かい子どもの記録の分析	植物や小動物等への関心が高まっている。言葉遣いや聞く態度について適宜指導を行っている。			日常保育の質の向上のために、園内研修だけでなく他園実施の研究保育にも積極的に参加している。幼小連携も視野に入れて、保育が行われている。	待賢幼稚園には、公立幼稚園ならではの地域との繋がりの深さが見られる。幼少期お年寄りと触れ合うことは、核家族・少子化が進む社会環境では、心を耕していく上で大変効果をもたらしている。幼稚園の在籍の子どもだけでなく、地域の子どもたち(親子)の豊かな育ちについても考えていってほしい。	
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	一人一人に応じた丁寧な指導	「早寝・早起き・朝ごはん」は実行できましたか。基本的な生活習慣がついていると思いますか。	「早寝・早起き・朝ごはん」は91%、「基本的生活習慣の確立」は91%と回答	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	→	子供の細かな育ちを読み取る研究を引き続き行ながる、人との関わり合いを大切にし、地域や他団体との交流、さらには豊かな体験活動を行う。	
	進んで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成	広い元待賢小学校校庭の活用、園外保育の充実、環境整備・計画的な保育	体力がついてきていると思いますか。友達と一緒に遊んでいると思いますか。	「体力」は100%ついてきていると回答、「元気に遊んでいる」も100%と回答			→	街中の園ではあるが、園内はさらに自然環境を意識して取り込み、今後も豊かな感性が育まれるように努める。	
	地域に開かれた子育て支援推進	毎日の園庭開放・教育相談 未就園児親子の遊びの日の開設 子育て支援センター等との連携	参加者数、参加者感想	未就園児遊びの日の参加者10月～3月のべ493名(昨年度679名)			→	待賢幼稚園には、公立幼稚園ならではの地域との繋がりの深さが見られる。幼少期お年寄りと触れ合うことは、核家族・少子化が進む社会環境では、心を耕していく上で大変効果をもたらしている。幼稚園の在籍の子どもだけでなく、地域の子どもたち(親子)の豊かな育ちについても考えていってほしい。	
4 独自の取組	情報発信の充実	HPの積極的な更新 地域への情報紙の発行 保護者への保育の説明	HPアクセス数 地域からの意見 保護者アンケート結果	前期HPアクセス数8,478名(昨年度後期7,418名) 保護者「園での子どもの様子がわかりやすい」前后期同様回答100%	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	→	→	→
	預かり保育の充実	毎日預かり保育の実施(全園) 保護者・地域の方の人材活用	預かり保育参加者数・アンケート・預かり保育は安心安全な遊びの場や保護者の子育て支援になっていますか	年間参加延べ人数3,188名(後期参加延べ人数1,734名(昨年度後期延べ1,610名)アンケート100%あてまるとの回答)			→	地域の親子が気軽に来園できる子育てステーションとして、ボランティアの協力により親子にとって安心・安全な環境づくりを心がける。	
	預かり保育の充実	毎日預かり保育の実施(全園) 保護者・地域の方の人材活用	預かり保育参加者数・アンケート・預かり保育は安心安全な遊びの場や保護者の子育て支援になっていますか	年間参加延べ人数3,188名(後期参加延べ人数1,734名(昨年度後期延べ1,610名)アンケート100%あてまるとの回答)			→	今年度より18時までの預かり保育が始まったことは、今後さらに就労等で支援の必要な家庭が園選びをされる上でも、選択肢の一つになってくる。園・PTAとの繋がりは大事にしてほしい。	

4 総括・次年度の課題

- 公立幼稚園に対する信頼度を高めていくためには、預かり保育や未就園児への取組だけに力点を置くのではなく、主体性や協同性等を培う日常の遊び込みを大事にした保育の充実が欠かせない。
- 地域の小学校とより繋がっていくためには、管理職を中核とした事前の話し込みや計画的な幼小連携の取組を行っていく必要がある。
- 子ども・子育て支援新制度実施年の今年度は、18時までの預かり保育が公立全幼稚園で始まった。一年を通して、延べ3,200名近い利用があり、次年度以降さらなる計画的な内容を重視した保育が求められる。
- 子育て支援の一つとして、0～3歳の子どもをもつ親子が集まる「ひよっ子クラブ」や日々の園庭開放などがあるが、園に来やすい雰囲気づくりや親子で遊べる内容の工夫も隨時行っていく必要がある。

